

チオプロニン錠

Tiopronin Tablets

溶出試験 本品 1 個をとり、試験液に水 900mL を用い、溶出試験法第 2 法により毎分 50 回転で試験を行う。溶出試験を開始し、規定時間後、溶出液 20mL 以上をとり、孔径 0.45 μ m 以下のメンブランフィルターでろ過する。初めのろ液 10mL を除き、次のろ液 V mL を正確に量り、表示量に従い 1mL 中にチオプロニン(C₅H₉NO₃S) 約 0.11mg を含む液となるように水を加えて正確に V' mL とし、試料溶液とする。別にチオプロニン標準品を酸化リン()を乾燥剤として 60 で 6 時間減圧乾燥し、その約 0.022g を精密に量り、水に溶かし、正確に 200mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 20 μ L ずつを正確にとり、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い、それぞれの液のチオプロニンのピーク面積 A_T 及び A_S を測定する。ただし、試料溶液及び標準溶液は測定まで冷所に保存する。

本品が溶出規格を満たすときは適合とする。

チオプロニン(C₅H₉NO₃S)の表示量に対する溶出率(%)

$$= W_s \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{V'}{V} \times \frac{1}{C} \times 450$$

W_s : チオプロニン標準品の量(mg)

C : 1 錠中のチオプロニン(C₅H₉NO₃S)の表示量(mg)

試験条件

検出器：紫外吸光光度計(測定波長：245nm)

カラム：内径 4.6mm、長さ 15cm のステンレス管に 5 μ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：40 付近の一定温度

移動相：薄めたリン酸(1 1000)/メタノール混液(4:1)

流量：チオプロニンの保持時間が約 4 分になるように調整する。

システム適合性

システムの性能：標準溶液 20 μ L につき、上記の条件で操作するとき、チオプロニンのピークの理論段数及びシンメトリー係数は、それぞれ 3000 段以上、1.7 以下である。

システムの再現性：標準溶液 20 μ L につき、上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき、チオプロニンのピーク面積の相対標準偏差が 1.5% 以下である。

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
100mg	60 分	75%以上

チオプロニン標準品 「チオプロニン」。ただし、乾燥したものを定量するとき、チ

オプロニン($C_5H_9NO_3S$)99.0%以上を含むもの。